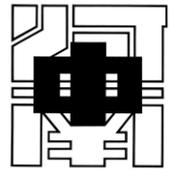


清・明・朗



米原市立河南中学校
学校だより 第14号
令和5(2023)年1月24日(火)



学校教育目標「**人権感覚を磨き、地域愛あふれる生徒の育成**」

(文責：校長 上村)

あたりまえに感謝！

毎日、学校であたりまえのように食べている給食ですが、毎日作っていただいている給食センターの方たちは、限られた予算の中で栄養のあるおいしい食事を、と大変な苦労や工夫をされています。メニューによって多くの残菜があったり、季節によって牛乳が多く残っていたりする日も少なくありません。伊吹山の自然の牧草と湧き水で育った乳牛から絞った美味しい牛乳ですが…。



今の日本の食生活は西洋化というより、まさに多国籍化しています。日本に居ながらにして、世界の国々のあらゆる料理を食べることができます。生活スタイルが変わり、食生活も変わり、体格も昔に比べるとずっとよくなりました。しかし、現代病といわれる様々な病気が多くなってきているのは事実です。今や、世界トップクラスの長寿国となりましたが、現在80歳や90歳以上の元気でられるお年寄りの方は、戦前戦中戦後の物のない時代を生き抜いてきた人たちばかりです。

早くから、日本食や豆腐等の食材が外国で注目されていますが、最近では、あの納豆が話題に上がってきています。やはり、日本人としての日常の食事は、煮物や魚、味噌汁等といった出汁(だし)の効いた和食に行き着くのでしょう。日本の風土や昔の人々の知恵や工夫に育まれた食事は、飽きがこないように思います。

高度経済成長期の1960~70年代に生まれ育った私自身、子どもの頃はハンバーグやエビフライ、スパゲッティなどが好きで、母親が作ったおからや切り干し大根、白和え、贅沢煮などが心の中でため息をつきながら食べていたのを思い出します。しかし、年齢を重ねた今となっては、そういったおかずがとても美味しく思われます。スーパーの惣菜コーナーへ行けば、そういった惣菜も売っていますが味に違いがあり、舌が覚えている家の味として母親(今は妻)が作ったそれらはとても美味しく感じます。

時々もう一度、母親の作ったあの贅沢煮など(生徒の皆さんは知っているかなあ)を食べたいなあと思うこともあります。2年前にアルツハイマー型認知症で5年8ヶ月病院生活を送りながら最後は老衰して亡くなった母親に二度と作ってもらうことは不可能ですが、いくつになってもあの味(母の味)を覚えているものです。

さて、今日1月24日から1月30日の一週間は『給食週間』として、給食や食事に対する取組がいろいろ行われています。日本の給食は、古くは明治から始まっています。今は、栄養価が高く、バランスのよい温かい給食が毎日食べられます。当たり前なのですが、世界を見渡すと、十分な食事をとれない地域や子どもたちがいることを忘れてはなりません。つまり当たり前は当たり前じゃないから、毎日の当たり前に感謝しなければならないと思います。(米原市の給食はとても美味しいですよ。)

サウンド部

第51回県アンサンブルコンテスト出場 R5.1.14(土)

木管三重奏 演奏曲「月は優しく愛を照らす」 **銅賞**

県大会(守山市民ホール)でも素晴らしい演奏を披露してくれました。



お礼 今年度も各区长様を通じて、学区の皆様には後援会費をお願いしましたところ、**664,850円**集まりました。今年度も学校の教育活動に大いに役立っています。大変ありがとうございます。活用の詳細につきましては、次年度に報告させていただきます。

訂正とお詫び 先日1月13日発行の「清・明・朗」第13号につきまして、2年大橋快成さんの「新年の抱負」のなかで、間違いがありましたので訂正してお詫びいたします。

×「今年の目標は、**戦況**と生徒会…」⇒○「今年の目標は、**勉強**と生徒…」



河南中 Facebook



河南中 HP